



SAF Newsletter Vol. 10

SAF 日本事務局 〒163-1304 東京都新宿区西新宿 6-5-1 新宿アイランドタワー4F TEL:03-5321-6222 <http://www.studyabroadfoundation.org/japan>



2009 留学準備特集 2: 教えて! “TOEFL iBT”の攻略法。

2006 年より導入された、TOEFL iBT。文法問題が廃止され、日本人にとって最大の難関であるスピーキングが導入されるなど、問題の構成も大きく変わりました。学部授業を履修する留学には欠かせない、TOEFL スコア。2009 年秋学期の留学に向けて追い込みをする学生に向けて、前回の Reading, Listening, 対策に加えて今回は、Speaking, Writing セクションの攻略法を伝授します! がんばれ、TOEFL 対策◎

Writingの特徴と攻略法は? Speakingで高スコアを取るために!

TOEFL iBT の問題において、日本人が一番苦手とするのが、Output のエリア:すなわち Speaking と Writing です。新しい TOEFL iBT が導入されたことによって、日本人の TOEFL スコアが伸びない理由がここにあるとさえ言われています。

Task 1: iBT から始まったライティングテストの形式で、Reading・Listening・Writing 全ての要素が詰まったテストです。

記事 Reading(3分)

講義 Listening(3分)

Writing スタート

PC画面はReading記事へ戻る

短いパッセージを読んで、それに反論する意見を聞く、そして読んだ内容に対して聞いた内容が何を言っているのか要約をするというテストです。ここでは、リスニングでどれだけキーワードを聞いているかがポイントになります。キーワードは講義の中に10個ほど出てくるので、キーワードを含んだ要約がどれだけできるかが高得点につながります。

Task 2: 問題傾向は次の2つにわかれています。①二者択一(問題文に which が含まれているもの)、②Agree or Disagree(賛成/不賛成を述べるもの)。ここでは、a/the などの文法のマイナーミスはカウントされないため、より文構造に注意を払うことが重要です。つまり…

- アイディアそのものは評価されません。
- 最低語数 300word を上回っていることが大切。
- 文の内容よりも構造(organization)が重要。意見を述べる順序がポイントです。

※戦略的な裏情報なので、正しく問題を解く努力も惜まらずしましょう◎

TOEFL の Speaking で求められているのは、英会話力ではなくスピーチ力です。演説やプレゼンテーションをイメージして次のポイントに注意しましょう。

- ① **テンポ:** 流暢に話そうとして早口になりすぎると減点されます。聞きやすい速度で話しましょう。
- ② **はっきり・堂々と:** Native English Speaker にとって自然に聞こえる英語であることが高得点の基準。細かいミスを気にすることなく、堂々とはっきりと話しましょう。
- ③ **イントネーション:** 抑揚・強弱をつけることでより分かりやすいスピーチになります。副詞を多めに使い、そこを強調すると英語にリズムが出ます。

Task 1&2: Personal Opinion(個人の意見)を問う問題

- 準備時間 15 秒 / スピーチ時間 45 秒

Task 3&4: 大学生生活や講義に関する Reading(75~100 語) + Listening(150~180 語) をして内容を要約の上話す

- 準備時間 30 秒 / スピーチ時間 60 秒

Task 5&6: 大学生生活や講義を想定した比較的長いリスニング Listening(180~220 語: 大学生生活 / 230~280 語: 講義) をして内容を要約の上話す

- 準備時間 20 秒 / スピーチ時間 60 秒

★Point★ Writing と Speaking のセクションでは、何が採点の基準になっているかを知ることが大切です。減点 / 加点の対象を知ること、確実に点が上がります。まずは、問題の特徴をよく知ることから始めましょう!

Q: 留学を終えて全体的な印象・感想を教えてください。

この留学は、私の人生の中ではほんの一部にすぎないが、とても大きな思い出になった。なぜなら、自分の成長を自分で感じることができたからだ。この大学には日本人が少ないため、英語に囲まれた生活を経験することができる。慣れない英語で1から受付や手続きをした。しかしその中で、英語で相手に意思疎通ができないことが何回もあった。日本語がしゃべれないということがストレスにもなったりもした。だが、「だめだ」とただ思うのではなく、私は人が使っている英語を真似ることから始めた。英語を話すと言うことは難しく思えるかもしれない。しかし、私くらいの年齢になればある程度文法や決まり文句も知っているはずだ。それを会話で使うのには、やはり“自信”が大切だ。しばらくすると、8月の自分と比べて楽しく会話ができるようになっていく自分に気づいた。同時に、自分の成長を自分で感じる事ができた。

Q: インディアナ大学はどうでしたか？

インディアナは少し田舎だが、校舎も学校周辺も広々としている。それだけでなく、人々の心もとても広くて温かい。アジア人を差別するような人には1人も会わなかった。それどころか、向こうから積極的に挨拶をしてくれたり、話しかけてくれたり、パーティーに誘ってくれたり、家に招待してくれたりもする。日本語を勉強しているアメリカ人に日本語の宿題を手伝って、こちらも英語を教えてもらったりもした。何より嬉しかったのは、私の話をよく聞いてくれたこと。「もー、言えないからいいかな」と思っても、ちゃんと理解してくれようとする。この姿勢が私の英語を伸ばしてくれた要因の一つだ。

Q: 留学中、一番苦労したことは何ですか？

エッセイの書き方を知らなかったこと。この授業では、フィードバックは先生からではなく、生徒たちで読み合っ、アドバイスし合うというものだった。私のエッセイを読んだ友達は始め、あまりのひどさにびっくりしていた。「構成のやり方が違う」「最初の出だしと最後の結論に一貫性がない」などとたくさんアドバイスをしてくれたが、改善点ばかりで私はすっかり自信を失ってしまった。そんな私を見て一人の韓国人の友人が、「初めてにしては、よく書けるよ。もし書き方が分からないなら放課後教えてあげる。」と言ってくれ、諦めずに何度も何度も基礎から練習をした。そんなころ、リーディング&ライティングの授業でもエッセイの宿題が出された。このエッセイは成績に大きく関わると聞いて、私は1週間前から準備を始め、自分が今までリサーチライティングで学んできたことを全面に出して頑張った。そしてエッセイ提出してから数日後、先生に呼ばれ、「あなたの今回のエッセイは本当に素晴らしかった。まさに私が望んでいたとおりのものでした。他の生徒の参考にもしてもらいたいから、授業内で読んでもいい？ 名前は伏せるから。」と言われた。私は信じられなかった。そして、今までの頑

張りが認められたような気持ちになってとても嬉しかった。授業内で私のエッセイが読まれているとき、私はとても誇らしげな気持ちになった。この経験を通して、分からないことでも諦めず、努力すれば必ず結果にでて、認められるということが分かった。

Q: 留学を終えて、この経験をどのように活かしていきたいですか？

私がこれからの人生に活かしていきたい点は大きく2点ある。まず1点目は、人をイメージで決めつけないこと。今回の留学で様々な人種の友達になることを通して、イメージや印象というものは、実際接してみるとそのイメージを覆すようないいところがある人にはたくさんあるということ学んだ。これから社会に出る中で、私はもっといろいろな人と出会うと思う。その中で忘れたくないことは、初めてあった人に対し、その人の見た目や肩書きなどでその人のことを決めつけないこと。「この人にはどんな良さがあるのだろう。」という姿勢で新しい人と向き合っていきたい。次に2点目は、努力を惜しまないこと。前にも述べたとおり、始めの状況がどんな風であっても、結果は努力次第でいくらでも変えることができる。例えば、私は今、100年に1度と言われる就職氷河期の中で就職活動をしている。しかし、私には焦りが無い。それは、この留学経験を通して、やる前から諦めることがどんなにもつたいないことが分かったからだ。努力して頑張れば絶対結果は付いてくると私は信じている。このように、私はこれからも状況に流されず、自分でできることは精一杯行い、やれるとこまでやってみよう！と考えるようにしようと思った。

Q: 典型的な留学中の一日を教えてください。

06:45	起床
08:00~09:00	グラマー
09:05~10:05	コミュニケーション
10:10~12:10	リーディング&ライティング
12:30~13:30	友達とランチ
14:00~17:00	昼寝、友達とお喋り
18:00~19:00	夕食&休憩
19:00~22:00	宿題、勉強

Q: 最後にあなたの今後の夢を教えてください。

私の夢は、世界で活躍できる人になること。まだ具体的には決まっていないが、世界中の人と英語を通して会話をし、日本の良さを知ってもらい、他国の良さも知りたい。そして両方の利益になるようなことができれば、と思っている。いろいろな人と楽しくコミュニケーションをとれるような人になるのが夢だ。

**単なる語学アップを超える経験。いろんな国籍の友達との出会い。
そして、始めから諦めることが、どんなにもつたいないことが分かった。**



桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 3年生 曾田 菜月さん
Indiana University 英語力強化プログラム 1学期間
2008年8月~12月 (計4か月間)